

平成29年度 日本小学生バレーボール連盟 運営基本方針

「ど真ん中に子どもがいる日本小学生バレーボール連盟」は、バレーボールを通じて人間力を育てる役割を担っていきます。

### 2020年に向けた中期目標

- 1 小学生バレーボールの普及及び発展を長期にわたり支える組織を目指し、連盟の法人化を行う。
- 2 考えさせるバレーボールの定着に向けて、指導方法の変革を行う。
- 3 47都道府県において、低年齢層の子どもを対象とした事業等を開催し、バレーボールの普及を図る。

### 理念達成への四つの柱

- 1 子どもを支えることが、大人（保護者、指導者、役員）の役割です。
  - (1) 基礎・基本の技術等をバランスよく習得させるため、競技規則の見直しを進めます。
  - (2) Thank You VBC の理念を徹底し「理想の指導者」「育てる子どもの姿」を実現します。
  - (3) 協力会社との関係を一層強固なものにするとともに、新たな協力企業を開拓します。
- 2 日本小学生バレーボール連盟の組織を、時代のニーズに合わせて強化していきます。
  - (1) 他スポーツ団体等と協力して、子どもを取り巻くスポーツに環境を一層改善していきます。
  - (2) 当連盟及び47都道府県連盟の財源の安定化を図る仕組みを整備します。
  - (3) 当連盟の時代を担う人材の発掘及び育成に力を入れていきます。
- 3 時代が求める指導者の育成のため、指導者講習会の役割を見直します。
  - (1) 講習会の内容を見直すとともに、資格の取得の負担を減らします。
  - (2) 資格取得の段階から、意識改革を目指した講習会とするため、内容の充実を図ります。
  - (3) 幼稚園児等や障がいのある子どもに対する指導方法を開発します。
- 4 ファミリーマートカップ第37回小学生大会を発展の原動力にします。
  - (1) 本大会を通じて、発展の原動力となる新たな視点を全国に発信していきます。
  - (2) 限られた予算の有効活用と、参加チームの費用負担の軽減を実現します。
  - (3) 2020年に開催する福島・宮城開催に向けた準備を本格的に進めます。

### 予算編成指針

- 1 指導者、保護者の意識を変えるため、啓発事業へ一層投資します。
- 2 低年齢層への普及を進める事業へ、積極的に投資します。
- 3 経費削減について、引き続き取り組み、子どもへ還元します。

平成29年4月17日

県内小学生バレーボール関係各位

岐阜県小学生バレーボール連盟  
審判委員長 大森 祥生

## 2017年度小学生バレーボール競技規則の改正・修正点

平成29年度ルールの主な改正・修正点に関して、今年度ルールの改正点はありません。なお当県小連大会では、日本小学生バレーボール連盟の取扱いに準じ、下記のとおり一部見直すこととします。

### 記

#### 1. 教育的指導の取り扱いについて

##### (1) 教育的指導の目的

子どもたちにバレーボールを継続して楽しんでもらうため、指導者や審判員は、試合を通してルールやマナーを伝えていくことが大切です。周りへの感謝の気持ちや、お互いが気持ちよく試合ができるよう、フェアプレーを自ら考え、行動できる選手の育成につなげていきます。

##### (2) 教育的指導の取り扱い

主審には、チームが罰則のレベルに達しないよう防ぐ義務があります《競技規則 p.72 21.1》選手（子ども）による軽度の不法な行為が起きた時に、主審（審判団）は両チームのゲームキャプテンを呼び（この時副審は必ず主審の下へ行く）、何の事象（行為）についての注意か明確にしたうえで注意を与え、選手にはゲームキャプテンを通じて、ベンチスタッフ等には副審から監督を通じて、それぞれ伝えることにより、その事象の再発を防止します。この時ゲームキャプテンと監督には、伝えて理解し終えたら、主審に対して片手を挙げるように指示します。

ただし、教育的指導は事象ごと（行為の種類ごと）に両チームに対し1回のみです。従って、教育的指導を与えた事象を、その試合の中で次にどちらのチームが起こしても、該当チームのゲームキャプテンを呼び寄せて、ステージ1以降の罰則《競技規則 p.73》を適用します。

もし、さきほどの事象とは違う軽度の不法な行為が起きた時は、改めて主審は両チームのゲームキャプテンを呼び、教育的指導を行います。

##### 【例：指導の対象となるような選手の行為】

- ・相手チームに向かって威嚇するようなガッツポーズや声を出した
- ・ラリーの完了後ボールをネットの上を通して相手チームに返した
- ・判定が出された後、判定に対して不満を言ったり、主副審や線審に詰め寄る態度をとった

#### 2. サーブ順の誤りについて

サーブを打つ前に、サーバーの間違いを記録員が確認した場合は、チームに間違いを伝えます。もしチームが正しいサーバーが分からない時、ゲームキャプテンは副審に番号の確認をすることができます。それでもなお間違ったサーバーが打った場合は、ローテーションの反則となります。

以上